

**令和7年度(令和6年度対象)**

教育委員会の  
点検・評価

令和7年11月  
壬生町教育委員会

# 目 次

I 教育委員会評価の概要	P 1
II 教育委員会の活動	P 4
III 主な施策ごとの事業概要、評価、方向性	P 6
1. 学び合い、文化が薫るまちづくり（生涯学習課）	
(1)学習環境の充実	
①図書館指定管理運営事業	P 6
②子ども読書活動推進事業	P 7
③まちかど文庫管理運営事業	P 7
④各種講座等開催事業	P 8
⑤社会教育施設改修等事業	P 9
(2)文化芸術の振興	
①文化祭等の芸術文化推進事業	P 12
2. 誇れる歴史と伝統を受け継ぐまちづくり（生涯学習課）	
(1)文化遺産の保護・活用	
①壬生古墳発掘調査及び保存活用計画書策定事業	P 14
②発掘調査参加大学との連携事業	P 14
③みぶ古墳ボランティア育成事業	P 15
④文化財保存・活用事業	P 15
(2)地域伝統・歴史の再興・継承	
①保存会伝承に伴う補助事業	P 16
②無形民俗文化財公開事業	P 17
(3)地域の歴史の再発見・発信	
①企画展等開催事業	P 17
②藩校サミット開催記念事業	P 18
③壬生論語古義塾育成事業	P 18
3. 未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり（学校教育課・生涯学習課）	
(1)教育内容の充実（学校教育課）	
①学力向上支援事業	P 20
②情報教育推進事業	P 20
③社会体験活動推進事業	P 21
④夢と志のある人づくり推進事業	P 22

(2)教育環境の充実（学校教育課）

- ①学校施設改修事業…………… P 23
- ②学校給食及び食育充実事業…………… P 24
- ③学校給食委託事業…………… P 25
- ④学校規模適正化検討事業…………… P 25
- ⑤小中学校学校事務共同実施事業…………… P 26

(3)学校部活動の改革（生涯学習課）

- ①地域部活動推進事業…………… P 26
- ②部活動指導員配備事業…………… P 27

4. 明るく元気な生涯スポーツのまちづくり（スポーツ振興課）

(1)生涯スポーツ活動の推進

- ①総合型地域スポーツクラブ支援事業…………… P 29
- ②運動場管理事業…………… P 30

(2)多様なスポーツの振興

- ①ゆうがおマラソン開催事業…………… P 31
- ②壬生町駅伝チーム育成支援事業…………… P 32
- ③スポーツ振興助成事業…………… P 32
- ④スポーツクライミング普及促進事業…………… P 33

5. 家庭と地域の絆を育むまちづくり（生涯学習課）

(1)家庭教育の推進

- ①子育て・親育ち講座開催事業…………… P 35

(2)青少年教育の推進

- ①青少年活動推進事業…………… P 36

(3)地域と連携した教育の推進

- ①地域学校協働活動推進事業…………… P 36
- ②中学生及び青少年地域活動参画推進事業…………… P 37
- ③放課後子ども教室事業…………… P 38

6. 国際性を高め交流活動が盛んなまちづくり（学校教育課）

(1)国際理解の促進

- ①外国語指導助手配置事業…………… P 40

(2)国際交流活動の推進

- ①中学生国際交流推進事業…………… P 41

# I 教育委員会評価の概要

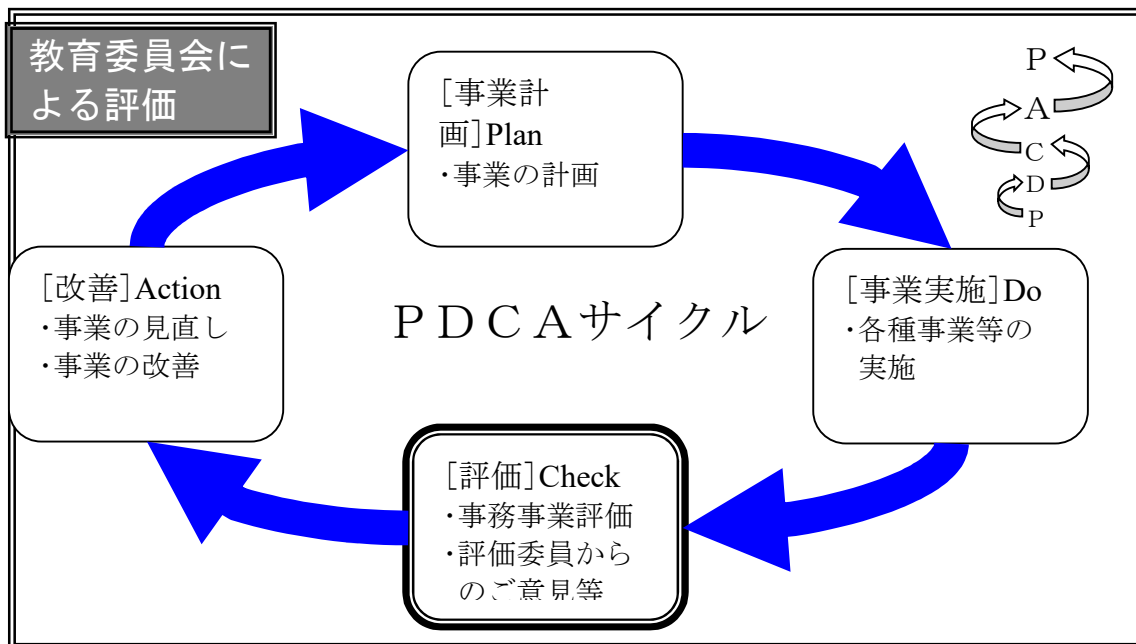
## 1 評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民へ公表するため、壬生町教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施します。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋  
(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)  
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。  
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### ○評価のしくみ

教育委員会で行った自己評価と今後の対応方向を明示して、外部の方のご意見をいただきます。



## 2 評価の対象

平成28年度から令和7年度の町政運営の基本的方向を示した壬生町第6次総合振興計画～子育て・健康・壬力がキラリ 幸せ実感 住みよい“壬生町”～に基づき、6施策、50事業に区分けし、必要性・妥当性・効率性・有効性等の観点から、令和6年度に執行した事務の管理及び執行のうち、重点事業について評価を行いました。施策の名称等は次のとおりです。

## 【施策の名称等】

### ○基本姿勢

「みんなで学び・楽しみ 心が触れ合うまち」

基本施策	施策の展開	主な事業	重点事業
1. 学び合い、文化が薫るまちづくり  ■生涯学習課	(1)学習環境の充実	○図書館指定管理運営事業	◎
		○子ども読書活動推進事業	◎
		○まちかど文庫管理運営事業	◎
		○各種講座等開催事業	◎
		○社会教育施設改修等事業	◎
	(2)文化芸術の振興	○音楽によるまちづくり推進事業	
		○文化祭等の芸術文化推進事業	◎
2. 誇れる歴史と伝統を受け継ぐまちづくり  ■生涯学習課	(1)文化遺産の保護・活用	○壬生古墳発掘調査及び保存活用計画書策定事業	◎
		○発掘調査参加大学との連携事業	◎
		○みぶ古墳ボランティア育成事業	◎
		○文化財保存・活用事業	◎
	(2)地域伝統・歴史の再興・継承	○保存会伝承に伴う補助事業	◎
		○無形民俗文化財公開事業	◎
		○無形民俗文化財連絡協議会設置事業	
	(3)地域の歴史の再発見・発信	○藩校サミット開催記念事業	◎
		○郷土の偉人顕彰事業	◎
		○壬生論語古義塾育成事業	◎
3. 未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり  ■学校教育課 ■生涯学習課	(1)教育内容の充実（学校教育課）	○学力向上支援事業	◎
		○英語力育成事業	
		○教師力向上支援事業	
		○情報教育推進事業	◎
		○社会体験活動推進事業	◎
		○子どもの体力向上支援事業	

		○夢と志のある人づくり推進事業	◎
	(2)教育環境の充実(学校教育課)	○学校施設改修事業	◎
		○学校教育ICT化推進事業	
		○学校給食及び食育充実事業	◎
		○学校給食委託事業	◎
		○学校規模適正化検討事業	◎
	(3)学校部活動の改革(生涯学習課)	○地域部活動推進事業	
○部活動指導員配備事業			
4. 明るく元気な生涯スポーツのまちづくり ■スポーツ振興課	(1)生涯スポーツ活動の推進	○総合型地域スポーツクラブ支援事業	◎
		○運動場管理事業	◎
	(2)多様なスポーツの振興	○ゆうがおマラソン開催事業	◎
		○壬生町駅伝チーム育成支援事業	◎
		○スポーツ振興助成事業	◎
○スポーツクライミング普及促進事業	◎		
5. 家庭と地域の絆を育むまちづくり ■生涯学習課	(1)家庭教育の推進	○家庭教育推進事業	
		○子育て・親育ち講座開催事業	◎
		○「家庭の日」の啓発事業	
	(2)青少年教育の推進	○青少年活動推進事業	◎
		○青少年健全育成事業	
	(3)地域と連携した教育の推進	○地域学校協働活動推進事業	◎
		○中学生及び青少年地域活動参画推進事業	◎
○放課後子ども教室事業		◎	
○郷土愛醸成推進事業			
6. 国際性を高め交流活動が盛んなまちづくり ■学校教育課	(1)国際理解の促進	○外国語指導助手配置事業	◎
		○中学生国際交流推進事業	◎
	(2)国際交流活動の推進	○壬生町国際交流協会活動支援事業	

## Ⅱ 教育委員会の活動

壬生町教育委員名簿

職名	氏名	任期
教育長	田村 幸一	R3. 4. 2～R6. 4. 1 R6. 4. 2～R9. 4. 1
委員	藍田 収	R3. 12. 23～R7. 12. 22
委員	宇賀神 真佐江	R2. 11. 1～R6. 10. 31 R6. 11. 1～R10. 10. 31
委員	廣田 香織	R4. 10. 1～R8. 9. 30
委員	本島 博久	R6. 1. 22～R10. 1. 21

### 1. 教育委員会の活動

#### (1) 教育委員会会議の開催状況

		令和5年度	令和6年度
開催回数	定例会	1 2	1 2
	臨時会	2	1
計		1 4	1 3
付議案件数	審議	3 2	2 5
	報告	3 7	3 2
計		6 9	5 7

#### (2) 令和6年度教育委員会会議の審議件数一覧

事項	件数
教育に関する一般方針について	5
人事案件について	1 1
規則等の制定・改廃について	6
教育委員会の点検・評価について	0
その他	3
合計	2 5

### 2. 総合教育会議

平成27年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部を改正する法律が施行となり、首長（町長）は総合教育会議を設け、首長と教育委員会が教育行政の大綱や重点的に講ずべき施策等について協議・調整を行い、両者が教育施策の方向性を共有し、一致して執行にあたることとなりました。

	開催日	内容
第1回壬生町総合教育会議	令和6年11月28日	(1) みぶっ子放課後未来塾事業について ①事業概要について ②質疑及び意見交換  (2) 中学校の休日部活動の地域移行の進捗状況について ①令和7年度の中学校の休日部活動の地域移行予定について ②質疑及び意見交換

### 3. 教育委員会会議以外の活動状況

#### (1) 学校その他の教育施設等の訪問

実施日	視察先
令和6年 5月22日	安塚小学校
令和6年 5月28日	睦小学校
令和6年 5月29日	壬生小学校
令和6年 6月19日	藤井小学校
令和6年 6月21日	南犬飼中学校
令和6年 6月24日	壬生東小学校
令和6年 6月25日	稲葉小学校
令和6年 6月26日	壬生中学校
令和6年 7月 8日	羽生田小学校
令和6年 7月10日	壬生北小学校

#### (2) 教育委員の総会・研修会など

令和6年 7月 4日～5日 下都賀地区市町教育委員会連合会学事視察  
 令和6年 8月 2日 下都賀地区市町教育委員会連合会教育委員全体研修会  
 令和6年11月20日 栃木県市町村教育委員会連合会研修会

### Ⅲ 主な施策ごとの事業概要、評価、方向性

#### 1. 学び合い、文化が薫るまちづくり

##### 基本方針

- 豊かな生涯学習社会の実現を目指し、学習機会の提供、内容の充実や学習成果の活用を推進します。
- 多様な文化芸術に触れる機会を創出し、文化芸術の振興を推進します。

##### (1) 学習環境の充実

図書館の利便性の向上を図り、幅広い年齢層に読書活動を推進します。また、地域住民の多様化・高度化した学習ニーズに応えるため、魅力ある多様な学習講座を提供したり、社会教育施設の学習環境を整えるための改修、修繕を計画的に行っていきます。

##### ① 図書館指定管理運営事業 (44,711,000円)

###### <事業概要及び実施状況>

壬生町立図書館は、平成27年4月1日から指定管理制度を導入しました。図書館の管理運営は、「株式会社 図書館流通センター」が行い、開館時間の延長や祝日の開館等、利用者の利便性の向上に努めております。

令和6年度の開館日数は、316日で、開館時間は、午前9時から午後7時まででした。また、令和4年度より中央公民館と歴史民俗資料館との3館連携で「みぶ城址フェスティバル」を実施し、各施設に来場した方々の相互交流により事業の充実を図っています。

###### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値			
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
図書館入館者数	延べ入館者数	人	42,598	55,444	56,901	62,622
図書館貸出冊数	貸出冊数	冊	137,476	138,122	128,917	130,539

図書館の指定管理者制度導入により、各種サービスの質の向上が図られました。入館者数は各種イベント実施や図書館のクーリングシェルター指定に伴い増加傾向にありますが、貸出冊数は指定管理制度が導入された平成27年度から比べると伸び悩んでいます。要因としては、全国的に読書をする人や児童・生徒数の減少、インターネットにより図書以外の情報収集が容易になったこと等の社会情勢の変化が考えられます。

近隣市町の新設・改修した図書館でも入館者数が増加するも貸出冊数に大きな変化が無い状況であることから、近年の図書館における役割はコミュニケーションや交流の場としての位置づけも加わりつつある状況となっております。当町でも今後は交流の場としての図書館づくりの充実を図り、利用者のニーズに対応したサービスの改善及び図書館事業を実施していくことが必要になります。

新規サービスとして、遠方にお住まいの住民から本の返却がしにくいとの要望を受け、南犬飼地区公民館及び稲葉地区公民館に返却BOXを設置して好評をいただいています。

###### <今後の方向性>

令和6年度で第2期の指定管理任期が満了となることから、公募による指定管理者募集を行った結果、引き続き「株式会社 図書館流通センター」が管理・運営を行うことになりました。民間事業者の幅広い技術や知識を活用することで利用しやすい図書館づくりに努めていきます。

## ②子ども読書活動推進事業

### ＜事業概要及び実施状況＞

子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造性を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることから、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資するため、「子ども読書活動推進計画」を策定しています。

壬生町では、「壬生町子ども読書活動推進計画（第三期）」（計画期間 2024 年度～2028 年度）を令和 6 年 3 月に策定しました。

また、子どもの読書離れを防止するためのビブリオバトルに類するイベントの実施は、指定管理者の「株式会社 図書館流通センター」が中高生向けサービスとして「みぶ城址フェスティバル」内で「押し本バトル」として実施し、今後も継続して実施していく予定です。

### ＜評価と課題・改善＞

「壬生町子ども読書活動推進計画（第三期）」を元に子どもが読書活動をしやすい環境づくりに努めており、新規事業としてはヤングアダルト向けコーナーの設置を行いました。

### ＜今後の方向性＞

子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めていきます。

## ③まちかど文庫管理運営事業（90,283 円）

### ＜事業概要及び実施状況＞

まちかど文庫は、平成 26 年 4 月に南犬飼地区公民館分館の 1 階ロビーに開設した、地域の小さな図書館です。町民からの寄贈本を中心に専任の会計年度任用職員で運営しております。

平成 28 年 7 月から「壬生町立図書館貸出文庫コーナー」を設けました。より魅力的な文庫づくりのため、町立図書館の蔵書 200 冊（児童書、一般書）を 2 ヶ月毎に借り受け、貸出を行っております。

### ＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和 5 年度	令和 6 年度
まちかど文庫入館者数	延べ入館者数	人	1,325	746
まちかど文庫貸出者数	延べ貸出者数	人	839	643
まちかど文庫貸出冊数	貸出冊数	冊	2,172	1,681
まちかど文庫蔵書数	蔵書数	冊	15,203	15,979

### ＜評価と課題・改善＞

まちかど文庫は、主に乳幼児から中学生までの子どもたちを対象とし、地域の小さな図書館の役割を果たしております。町図書館との連携により、読書環境が整備されました。図書の出書のほかイベント等も開催しながら、文庫利用者の増を図っていきます。

### <今後の方向性>

まちかど文庫は開設して10年が過ぎました。新型コロナウイルス感染拡大対策として利用制限等を実施したこともあり、その間数年は減少傾向にありましたが、その後わずかではあります利用者増が図られていたものの、今回は減少しました。今後は施設の衛生管理に努めながら利用者増を目指しPRに努めます。

### ④各種講座等開催事業

- ◇壬生中央公民館 (754,239円)
- ◇稲葉地区公民館 (293,745円)
- ◇南犬飼地区公民館 (380,293円)

### <事業概要及び実施状況>

壬生中央公民館では、前期講座として「特別講座 聖地日光への道～壬生の位置づけ～」 「からくり工作教室～モノづくりの楽しさ～」 「古典文学講座～教養としての源氏物語の世界」 など9講座、後期講座として「懐かしの歌声講座」「奥の細道講座～芭蕉の足跡をたどる・下野路～」 など6講座、また、子ども向け講座として、夏休みには「理科実験教室」「親子料理教室」「音楽教室」の3講座を開催しました。冬休みには「ダンボールクラフト教室」の1講座を企画いたしました。

稲葉地区公民館では、「ボディケア教室」「手作りパン教室」など7講座を開催いたしました。

南犬飼地区公民館では、「筆ペン教室」「フラワーアレンジメント教室」など9講座を開催いたしました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
講座開催回数	教室、講座延べ開催回数	講座	185	182
講座受講者数	参加延べ人数	人	2,735	3,663

### <評価と課題・改善>

各公民館は、学習機会(生涯学習)提供の場として、町民が参加する教室・講座等を開催し、学習者の仲間づくりなどに大きな役割を果たしています。町民のニーズの把握に努め学習テーマ、内容など考慮しておりますが、開催数及び回数には限度があることが、参加者の減少傾向につながっている要因です。今後も参加意欲を刺激する教室・講座等を開催し、受講者増を図っていきます。

日頃より自主的に活動している町民団体の成果を発表する場として「公民館まつり」を、令和7年2月8日(土)・9日(日)に開催いたしました。作品展示14団体、ステージ発表17団体が参加いたしました。

引続き、衛生管理等に努めながら、多くの町民の方々が安心して楽しめるような講座を企画しPRを図っていきます。

### <今後の方向性>

子どもから高齢者を含む幅広い世代が参加できるような魅力ある講座等の開催に努めていきます。また、町民が互いに学びあい、公民館講座等から自主的な学習(自主サークル)へと移行し、主体的に文化・芸術活動に取り組めるよう環境の整備を図るなど継続的な支援を図っていきます。

## ◇生涯学習館（1,157,014円）

### <事業概要及び実施状況>

生涯学習館では主催講座として、一般向けに「ピラティス講座」「体カアップ講座」「手作り味噌講座」「ポーセラーツ」「歴史読書会」など5講座と、親子を対象とした「リトミック講座（未就学児コース）」、小学生を対象とした「夏休みポーセラーツ講座」の2講座を実施しました。また、情報通信技術講習（通称IT講習）では「スマートフォン講座」（基礎編）（LINE編）を実施しました。

その他に委託講座として、壬生町子育て支援グループ「ポケット」に「子育て支援事業」を委託、3コースの事業に述べ351人の親子が参加。壬生町セミナースタッフ「みち」への委託事業「生涯学習セミナー企画事業」では、6事業で146人が参加しました。

生涯学習館を拠点に活動している自主団体の日頃の学習成果発表の場として年1回開催している「生涯学習館フェスティバル」は、令和7年3月9日に開催し、11団体の参加がありました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
講座開催回数	講座延べ開催回数	回	73	74
講座受講者数	参加延べ人数	人	621	1017

### <評価と課題・改善>

主催講座では、夏休みに親子を対象としたものを行い、新たな利用者の発掘に取り組むとともに、パソコン講座からスマートフォン講座への切り替えを実施した結果、参加延べ人数が増加しました。しかしながら、自主講座は、会員の高齢化、固定化が進んでおり、日常の活動はもちろん、新規会員の参加につなげる活動が課題です。

限られた事業費の中ですが、町民の自主的な学習への継続的な支援は不可欠です。町民の多様な興味やニーズを踏まえた講座の企画、周知、運営を進めます。

### <今後の方向性>

今後も、未就学児から高齢者までの幅広い世代を対象に、誰もが参加できるような魅力ある講座の開催に務めていきます。また、生涯学習館主催講座から継続的な学びの場として、自主的な学習（自主サークル）への移行を支援し、主体的に学べる環境の整備を図っていきます。

## ⑤社会教育施設改修等事業

### 【特記事項】

壬生町内の公共施設における照明のLED化について、令和5年度に町部局を含めた一体的な整備が実施され、嘉陽が丘ふれあい広場を除く施設で照明のLED化が進められました。LED化が完了していない箇所（図書館・稲葉地区公民館・北公民館の一部）について、令和6年度中に整備を行いました。

◇中央公民館改修等工事（4,412,100円）

<事業概要及び実施状況>

壬生中央公民館は建築以来38年、稲葉地区公民館は39年、南犬飼地区公民館は建築以来40年を経過して経年劣化が生じており大規模な改修工事が必要となっています。改修工事につきましては、年次計画を作って予算化を図り実施しています。なお、令和6年度は、以下の改修工事を実施しました。

\*中央公民館受電施設改修工事

漏電が判明し、火災等の危険があったため、修繕を実施しました。

\*屋上等修繕工事

屋内で雨漏りが生じたので、修繕工事を実施しました。

\*稲葉地区公民館追加非常灯・誘導灯設備工事

当該箇所のLED化を実施しました。

南犬飼地区公民館では、改修工事はありませんでした。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
壬生中央公民館利用者数	延べ利用者数	人	52,856	55,220
稲葉地区公民館利用者数	延べ利用者数	人	6,283	4,906
南犬飼地区公民館利用者数	延べ利用者数	人	11,525	19,015
計	3公民館延べ利用者数	人	70,664	79,141

<評価と課題・改善>

これまで、稲葉地区公民館では乳幼児健診と納税相談、南犬飼地区公民館では納税相談等が実施されていましたが、保健福祉センターや役場等で実施することになり利用人数は減少しています。しかしながら、新たな団体が利用するなど各公民館の利便性は評価できるものがあります。

<今後の方向性>

壬生中央公民館及び稲葉、南犬飼地区公民館・分館につきましては、施設の老朽化が進んでおります。また、空調設備や給水設備など三館（公民館・資料館・図書館）が共有している設備もあり、令和元年度に策定した長寿命化計画を基に、長期的かつ計画的な改修工事等を実施し、利用環境の向上と利用者の安全性を図ります。

◇図書館改修等工事(449,900円)

<事業概要及び実施状況>

図書館内照明で令和5年度にLED化が完了していない箇所（誘導灯）の改修工事を行いました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
入館者数	図書館延べ入館者数	人	56,901	62,622

### <評価と課題・改善>

施設の老朽化に伴う改修工事の実施により、利用者の利便性の向上や快適性の向上を図っております。

改修工事の実施に際しては、一時的に施設利用を制限することになることから、なるべく不便をかけないように工事を進めることが課題となります。

### <今後の方向性>

今後も修繕、改修工事が必要になっていますが、優先順位を付け、計画的な整備に努め、利用制限の期間をできるだけ短期間で実施するよう努めていきます。

#### ◇ふれあい広場改修等工事(976,000円)

### <事業概要及び実施状況>

嘉陽が丘ふれあい広場について、低濃度PCBを含む変圧器1基が稼働中であったことから、変圧器の交換及び既存変圧器の撤去を行いました。

今後のふれあい広場の利活用について、現在の施設形態を活かした方法を前提に令和5年度より民間業者と協議を行っていましたが、相手方の都合により交渉不成立となりました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
利用者数	ふれあい広場延べ利用者数	人	8,700	8,559

### <評価と課題・改善>

全体的に施設の老朽化が進んでおり、特に宿泊研修施設については現代の生活様式に沿わなくなっていることに加えて感染症対策等を考慮した構造となっておらず、今後施設を継続していくためには大規模な施設改修を検討する必要があります。

### <今後の方向性>

近年の町財政状況を考慮した結果、町単独での施設大規模改修は困難であることから、今後の利活用について民間活力の導入等を視野に入れて検討していきます。

#### ◇生涯学習館改修等工事(872,300円)

### <事業概要及び実施状況>

生涯学習館は、建築以来31年が経過し、経年劣化による設備等の改修工事が必要となっています。令和6年度は非常階段の塗装を行いました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
生涯学習館利用者数	延べ利用者数	人	6,005	6,277

### <評価と課題・改善>

今後は、利用者の学習環境の充実のために計画的な改修を行ってまいります。

## (2) 文化芸術の振興

多様な文化芸術に触れる機会と実演する楽しさを融合し、豊かな感性と文化芸術が薫るまちづくりを図ります。

### ①文化祭等の芸術文化推進事業

◇音楽鑑賞会等公演事業 (10,152,125 円)

#### <事業概要及び実施状況>

「音楽鑑賞会等公演事業」は、平成27年度まで壬生町施設振興公社で行っていましたが、平成28年度から町で引き継いで実施いたしております。平成29年度からは、「壬生町音楽鑑賞会等公演事業審議会」を設置しまして、公演事業の選定を諮り実施しております。

令和6年度は、「野村萬斎 狂言の会」、「夕顔寄席 (春風亭一之輔、鈴々舎馬るこ、柳家わさび)」、「音楽の絵本 ブーラシアンブラスフェスティバルバンド」の3公演を開催しました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
入場券購入者数	購入者数 (3公演)	人	2,472	2,047
入場券購入率	購入者数/入場券総数 (3公演)	%	82.2	67.8

#### <評価と課題・改善>

音楽鑑賞会等公演事業は、演奏者等の内容により入場者数が大きく変動するため、町民の興味のあるものを選定する必要があります。「壬生町音楽鑑賞会等公演事業審議会」を活用して、音楽の専門家をはじめ幅広い立場からの選定に努めます。PRについても、町の広報誌やホームページのほか、新聞各紙やテレビ各社等にも積極的に情報提供し、広く周知を図っていきます。

#### <今後の方向性>

令和6年度は、公演内容が町民のニーズに合わなかったものがあつたため減少しました。

「壬生町音楽鑑賞会等公演事業審議会」に諮りながら、音楽だけに偏らず幅広い内容からの公演開催を実施してまいります。

引き続き、衛生管理等を図りながら開催してまいります。

### ◇文化祭開催事業

#### <事業概要及び実施状況>

文化祭は、壬生町文化協会が主体となり、町教育委員会との共催で、文化協会の各部門ごとに様々な作品の展示・ステージ発表等を開催しております。

令和6年度第46回文化祭は、文化協会の各部門ごとに、9月21日から10月27日までの土曜日・日曜日を中心に開催しました。

#### <評価と課題・改善>

文化祭は、開催期間が長く、主に土曜日・日曜日での開催となり、それぞれの部門だけでは来客者が少ない状況もあるため、期日等を検討し、各部門を同日に開催して相乗効果を図るなどしながら集客に努めていきます。

#### <今後の方向性>

文化祭は、各部員の1年間の発表の場として行われているので、活動の成果を、会員はもとより、町民の皆さんに見て・参加していただき、文化の振興に寄与してまいります。

<評価委員の意見>

◎図書館指定管理運営事業

- ・ペーパーレス化に対応する方法として電子図書館サービスを検討してはどうか。

◎まちかど文庫管理運営事業

- ・まちかど文庫の存在は地域の子ども達にとってありがたい。
- ・利用する子ども達に読みたい本のアンケートを取ったらどうだろうか。
- ・現在午前中は閉館しているが、終日開館できないでしょうか。

◎各種講座等開催事業

Q. 平日の講座実施が多いようですが、土日に講座実施は難しいのか。

A. 土日にイベント等が開催されることが多く、その調整が難しい状況ですが、生涯学習館においては週末に歴史関連の講座を実施しています。

◎音楽鑑賞会等公演事業

- ・チケット販売時等に希望する公演のアンケートを取ったらどうだろうか。

◎文化祭開催事業

- ・現時点では各団体がバラバラに内容を検討していると思いますが、工夫して短期集中で合同でできる盛大なものにできたらどうだろうか。

## 2. 誇れる歴史と伝統を受け継ぐまちづくり

### 基本方針

- 文化財について、調査研究を行い、文化財の指定措置等を講ずることにより文化財の保護・整備に努めます。
- 史跡の保護について、保存活用計画書を策定し、適正な保存管理に努めます。
- 新たに郷土から輩出した人物や壬生の文化遺産の発見と振興に努めます。

### (1) 文化遺産の保護・活用

貴重な文化遺産を後世に良好な状態で引き継ぐため、文化財の調査・研究及び保護活動を積極的に取り組みます。

また、町内に残る歴史遺産を活用した文化財めぐり等の実施や古墳などの史跡公園を目指した調査・整備活動を推進します。特に、国指定古墳の公有化を進めるとともに、文化財の保護に努めます。

#### ① 壬生古墳発掘調査及び保存活用計画書策定事業

◇発掘調査報告書作成事業（0円）

##### <事業概要及び実施状況>

民間や公共事業に伴う開発行為や古墳の保存活用検討に伴う基礎資料作成には発掘調査が必要となります。調査完了箇所について資料の取りまとめを行っておりますが、令和6年度中での調査報告書の刊行には至りませんでした。

##### <事業実績>

壬生町の国指定古墳は5基であり、そのうちの3基（車塚古墳、牛塚古墳、愛宕塚古墳）が調査終了しました。この3基の古墳について令和元～2年度にかけて「保存活用計画書」を策定し、刊行しました。令和4年度には開発行為に伴う藤井古墳群の発掘調査を行い報告書を作成し令和5年度に刊行いたしました。

##### <評価と課題・改善>

車塚古墳、牛塚古墳、愛宕塚古墳について「保存活用計画」の策定が終了しましたが、残り2基の国指定古墳や国・県指定以外の古墳についての保存・利活用を検討するための調査については、開発に伴う調査業務との調整を図りつつ検討していきます。

##### <今後の方向性>

課内体制を整えた上で、開発申請業務との調整を図りつつ保存活用計画に向けて業務を行っていきます。

#### ② 発掘調査参加大学との連携事業（※中止）

##### <事業概要及び実施状況>

令和5年度以降については、開発申請に伴う調査業務が多忙となったことから、外部との連携事業受け入れが困難な状況となっております。

##### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
参加大学生数	連携事業参加者数	人	0	0

### <評価と課題・改善>

開発等に伴い自治体での緊急発掘調査が増加しているなか、埋蔵文化財専門職員を将来の職業に選択する学生が減少しているのが全国的な傾向です。埋蔵文化財行政の実態を知り、発掘調査の現場経験を積ませる機会となればと考えます。

### <今後の方向性>

今後調査を計画している茶臼山古墳等の発掘調査においては、東京学芸大学の他考古学を学ぶ他の大学生の参加を募ることも必要と考えます。また大学との連携事業においても新しい取り組みを導入することも必要と考えます。

## ③ みぶ古墳ボランティア育成事業

- ◇小学校等の古墳見学時の解説・誘導
- ◇体験講座での指導
- ◇他市町ボランティア団体との交流

### <事業概要及び実施状況>

管内8小学校343名の児童に対し、壬生の古墳を解説しました。また、「埴輪作り教室」「勾玉作り体験」などの体験イベントにて、参加者への指導を行いました。

また、上三川町で行われたボランティア交流会への参加や体験イベントへの協力を行いました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
みぶ古墳ボランティアの 会会員数	ボランティア参加希 望者数	人	38	37

### <評価と課題・改善>

今年度より、上三川町教育委員会主催の事業に連携することで、ボランティア団体としてのスキルアップを図ることができました。

今後も交流を続けるとともに、古墳ボランティアの新規会員勧誘も含め、積極的な活動を進めていきたいと考えています。

### <今後の方向性>

会員の古墳に対するスキルアップとともに、小学生に対するより良い解説を目指し、研究を重ねていく必要があります。また、今後は、一般の方へも解説を広げていくことが、同会の飛躍につながっていくと考えます。

パネルなどの解説用教材の充実を図ることも必要です。

## ④ 文化財保存・活用事業

- ◇文化財保護管理事業(2,967,439円)

### <事業概要及び実施状況>

町内にある国史跡4か所、県史跡1か所、町史跡1か所の除草・剪定等を行い、史跡地の維持・管理に努めています。

- ◇埋蔵文化財発掘調査事業(1,729,242円)

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
発掘届受理件数	遺跡の保護の把握	件	46	59

### <事業概要及び実施状況>

民間開発に伴う59件の発掘届出に基づき、発掘調査1件、確認調査4件、立合調査17件を行いました。発掘調査では、上田の大力遺跡で古墳時代後期の竪穴建物跡8軒、土坑3基を確認しました。確認調査では上田の鳥喰遺跡・上田城址で上田城に伴う中世の堀跡2条(2本)を確認し、中世の壬生を知る上で貴重な発見となりました。

### <評価と課題・改善>

開発に伴う発掘届出の事務について、遺跡の周知が徹底されてきたため、以前に見られたような無届の開発行為は減少してきました。令和3年以降、住宅建設に伴う届出は着実に増加傾向となっていますが、他に大規模な太陽光発電や蓄電池施設の建設、赤土採取工事に伴う申請が急増しています。

### <今後の方向性>

今後の当町においては、開発行為と遺跡の保護のバランスを取ることが重要な課題です。開発に伴う調査においては、件数増加や太陽光発電等による開発の大規模化が続くと思われることから、埋蔵文化財への開発業者の理解と保護への協力がますます重要になるものと考えます。

## (2) 地域伝統・歴史の再興・継承

地域に伝わる文化遺産の調査・研究・普及啓発を行います。特に郷土芸能などは、良好な状態で後世に引き継げるよう、伝統の継承に努めます。

### ① 保存会伝承に伴う補助事業

#### ◇文化財保護管理事業・町指定無形民俗文化財道具等修繕事業補助金

令和6年度の道具等修繕依頼はありませんでした。

### <事業概要及び実施内容>

町指定無形民俗文化財保存会13団体に道具等への修繕補助事業を行い、貴重な文化遺産である郷土芸能の伝承に努めました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
保存会数・13団体	補助金活用団体	団体	0	0

### <評価と課題・改善>

無形民俗文化財の伝承には、道具等の修繕及び更新が欠かせないものとなっています。よって、平成30年度から栃木県の補助制度を活用し、各保存会の道具等の修繕事業を実施しています。令和2年度は国谷太々神楽保存会が活用しました。

### <今後の方針>

令和2年度で保存会13団体のほとんどで修繕が完了したことになりますが、コロナ禍での活動自粛もあり、活動再開時に新たに経年劣化・破損等が確認される可能性もあります。令和6年度以降については、希望があれば修繕を行えるように継続的に道具の修繕及び更新の補助を行える体制を整えたいと考えています。

## ② 無形民俗文化財公開事業（20,000円）

### ◇みぶ郷土芸能フェスタの開催

#### <事業概要及び実施内容>

「みぶ郷土芸能フェスタ」の名称で民俗芸能の公開事業を行っており、令和2年度に感染症蔓延防止のため事業実施を中止して以来、令和5年度に事業を再開いたしました。令和6年度は「第42回壬生町産業まつり」内イベントとして実施しており、無形文化財登録団体の内2団体（藤井干瓢音頭保存会、下馬木五段囃子保存会）が参加しました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
来場者数	囃子聴講者数	人	100	150

#### <評価と課題・改善>

民俗芸能の演奏のみで来場者数を増やすことには限界があります、開催方法を工夫しイベントを盛り上げていければと考えています。また、不特定多数の来場者を迎えるイベント内で開催することにより、より多くの方に壬生のお囃子を知っていただく良い機会になると考えています。今後も各種イベントに出演し民俗芸能を公開していきたいと考えています。

#### <今後の方向性>

みぶ郷土芸能フェスタを定期的に行うことにより、各保存会の披露の場が増えるとともに、後継者の育成にもつながると考えます。

## (3) 地域の歴史の再発見・発信

地域の歴史について調査・研究を行い、その結果を企画展や講座などで発表し、住民が地域に愛着と誇りを持てるように啓発に努めます。

### ① 企画展等開催事業（1,998,423円）

#### <事業概要及び実施状況>

令和6年11月9日～12月22日に企画展「壬生のサムライと日光ブランド「聖地日光」をアートプロデュースした男」を開催しました。旧壬生藩士の守田兵蔵は明治時代の日光で活躍した、現代アートプロデューサーの先駆けともいえる人物です。維新後、武士から鉱山技師に転じ、地元に戻って銀行や建設業など様々な事業を手がけ、特に「日光ブランド」の美術工芸品を開発し、若手芸術家の育成に力を入れました。守田の活動は結果的には行き詰りましたが、日光に芸術家を育て「日光ブランド」を海外に発信した功績は多大です。

期間中はギャラリートークや、日光彫の実演を開催し、企画展を盛り上げることができました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
来館者数	来館者数	人	3,664	1,385

#### <評価と課題・改善>

毎年視点を変えたテーマの企画展を開催し、多くのお客様に来館いただくことができました。企画展の周知方法や期間中の同時開催イベントを工夫し、来館者数の増加に繋がりたいと考えています。

## ②藩校サミット開催記念事業(73,670円)

### <事業概要及び実施状況>

令和3年11月20日(土)に行われた第18回全国藩校サミット壬生大会のレガシー事業として、「壬生藩校学習館祭り」を継続して実施することとし、令和6年度は第3回目として11月10日(日)に実施しました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
来場者数(発表者を含む)	来場者数	人	300	300

### <評価と課題・改善>

過去の反省を生かして概ね円滑に事業実施ができ、多くの方々に参加いただくことが出来ました。今後本事業を継続することで、藩校サミットで蒔かれた種を育成・継続していきたいと思えます。

## ③壬生論語古義塾育成事業

### <事業概要及び実施内容>

壬生藩校「学習館」に端を発する論語の取り組みは、平成19年の「蘭学通りまつり」での論語の素読からはじまり、平成29年には壬生ロータリークラブの協賛により、湯島聖堂主催の『第1回壬生論語検定』を実施しています。令和6年度は『第8回壬生論語検定』を実施しました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
合格者数	壬生論語受験合格者総数	人	222	231

### <評価と課題・改善>

令和6年度は湯島聖堂公認『第8回壬生論語検定』を実施(R6.7.11~R6.9.26)し、238名の児童・生徒が試験に挑んだ結果、231名が合格しました。

令和5年度からは各学校を会場に対面での試験を実施しています。なお、試験官は、湯島聖堂から公認を受けた10名の壬生論語古義塾生が勤めました。今後の壬生論語古義塾の在り方として、塾生から指導者を育成し自主団体へと移行する必要があると考えます。

<評価委員の意見>

◎発掘調査及び保存活用計画書策定事業

Q. 発掘調査について他市町との連携ができないだろうか。

A. 令和6年度は唯一の埋蔵文化財担当学芸員が育児休業のため、具体的な連携を行うことが難しい状況であった。令和7年度においては、近隣市町と連携して埋蔵文化財についての勉強会を行う予定となっている。

◎保存会伝承に伴う補助事業

Q. 新たにお囃子会の保存会へ加入する方に対しての補助として、法被等の被服について補助が可能なのか。

A. 県の助成事業では被服が助成の対象となっていますが、町や団体負担も必要となる制度ですので、利用にあたっては各団体との調整が必要となります。

◎無形民俗文化財公開事業

・ 壬生町で他の市町の団体が集まって、伝統芸能を披露するフェスティバルが開催できれば、多くの方に聞いていただく機会となるのではないのでしょうか。

・ 無形文化財公開の指標としては、観客数よりも実施した回数や各団体からの参加者数が適切ではないのでしょうか。

◎文化財保護管理事業

・ 太陽光発電等の開発業者に対し適切な対応を行い、保護に努めてもらいたい。

・ 発掘作業を行う人材が少ないと思われることから、充実した人員配備について検討していただきたい。

(担当課補足)

・ 令和7年度に学芸員採用募集を行っており、人員の充実に向けて進めている所です。

◎壬生論語古義塾育成事業

・ 古義塾生が論語検定審査員を務めているとのことですが、現在務められてる方が元気な間に次世代の指導者育成に努めてもらいたい。

### 3. 未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり

#### 基本方針

- 子どもたちが元気に過ごせる特色ある学校づくりを進めます。
- 教育環境及び教育内容の充実や、学校、家庭、地域の連携強化を図ります。
- 学校施設の適正な整備や維持管理を図ります。
- 夢と志のある人づくりを推進します。

#### (1) 教育内容の充実

教職員がお互いに高め合うための研修の場の設定、多様な教育活動を可能にするための人員の配置、就学指導を含めた相談体制の充実、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の整備を図ります。

##### ① 学力向上支援事業

◇小・中学校学力向上支援事業(111,827,048円)

##### <事業概要及び実施状況>

壬生町立小・中学校に学校教育支援員(学力向上支援員・学校生活支援員)や教員助手、複式学級解消支援員を配置し、少人数指導やT・T(チーム・ティーチング)による、きめ細やかな学習支援、多様化する学習内容等への対応を充実させるとともに、児童生徒に確かな学力を身につけさせ、学力向上を図っています。また、障がい等の理由から個別対応が必要な児童について支援員を配置しています。

##### <事業実績>

指標名	単位	実績値	
		令和5年度	令和6年度
学校教育支援員等の人数	人	46	45

##### <評価と課題・改善>

本事業は、学力向上支援員を配置することで、学習面・生活面において、支援を要する子どもたちへ、よりきめ細やかな指導を実現するとともに、一人一人の学習指導における基礎基本の、確実な学習を図ることができます。個別の支援を実施することで、効果的な学習指導を実施することができました。

また、授業のサポート等を行う教員助手の雇用により、併せて教員の負担軽減も実現しています。

教育現場における人的配置は、児童生徒へのきめ細やかな対応による理解度の向上に効果があり、より手厚い人的配置を目指して引き続き事業を継続していきます。

##### <今後の方向性>

多様な教育的ニーズに対応できるよう、退職教職員OBを活用したり、多方面との連携を図りながら、優秀な人材を集め、より良い人材発掘に努めていきます。

##### ② 情報教育推進事業

◇小・中学校情報教育推進事業(48,352,656円)

##### <事業概要及び実施状況>

情報教育に対応した学校教育を実現するための情報通信ネットワークを整備し、効率的・効果的に利用できる環境整備を図るため、教員用パソコン等の更新をリース契約により実施しています。また、国の提唱するGIGAスクール構想に基づく1人1台端末の整備及び管理を実施しています。

<事業実績>

①リース実績

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
更新整備台数	更新台数	台	126	149
全校の保有台数	保有台数	台	563	435

②G I G Aスクール構想に基づく端末整備実績

摘要	単位	小学校	中学校	合計
児童生徒用端末	台	2,055	1,086	3,141
教師用端末	台	183	086	269

<評価と課題・改善>

国の提唱するG I G Aスクール構想に基づき、町内全小中学校において児童生徒及び教職員への1人1台のタブレット端末の整備・高速大容量の校内LAN環境の整備を実施することができました。令和3年度に、10Gインターネット回線の整備を実施し不安定な通信環境を改善しました。

以来ICT環境の充実に伴い先進的な取り組みを進めており、壬生東小学校と南犬飼中学校はリーディングDXスクール事業の指定校にもなるなど児童生徒の情報活用能力の育成が図られています。

<今後の方向性>

1人1台端末の授業での利用の本格化に伴い、端末と大画面TVを無線でつないだ画面共有や端末を利用したオンラインでの協働学習を通して、ICT教育環境をより一層充実させていきます。なお、令和2年度に整備したタブレット端末が5年を経過したことから、令和7年度にタブレット端末を更新しました。

③社会体験活動推進事業

◇マイ・チャレンジ推進事業(341,970円)

<事業概要及び実施状況>

地域における人との関わりを主とした社会体験活動を通して、共に生きる心や感謝の心を育むため、中学校2年生を対象に実施しています。生徒一人一人に、興味・関心の高い社会体験活動を選択させ、勤労の尊さを感じ取らせます。社会体験活動を通して地域を愛し、地域から愛される人間を育成します。

新型コロナウイルス感染症の影響により令和5年度は未実施でしたが、規制緩和にとともに、令和6年度には壬生中学校で再開でき、55箇所の事業所の受け入れにより、生徒たちは多様な職場での体験を学ぶことができました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
社会体験事業所数	事業所数	社	0	55

<評価と課題・改善>

いろいろな職業の方から直接話を聞くことで、仕事をする事、働く事を考えるよい機会となり、将来を考えていく際のよきアドバイスになりました。

直接的な社会体験を通じて、自己の生き方、勤労の尊さを感じとらせることができました。また、様々な職業に対する考え方や学習の必要性を理解するなど、生徒の意識が高め

られました。事業所の選定については、できるだけ生徒の希望を反映できるようにしています。

<今後の方向性>

職場体験学習は、生徒の成長段階に応じた勤労観や職業観の育成、自己有用感の醸成などに役立つことから今後も引き続き実施していきます。

④ 夢と志のある人づくり推進事業

◇教育支援事業 (300,800円)

<事業概要及び実施状況>

障がいがあるため、小・中学校の通常の学級では十分な教育効果を期待することが難しい児童・生徒に対して、どのように対応するか様々な情報を提供しながら保護者とともに考えます。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
教育支援委員会で審議した児童・生徒 ( )内は入級・入学者数	知的障がい特別支援学級入級適	人	56 (37)	53 (42)
	自閉症・情緒障がい特別支援学級入級適	人	30 (24)	42 (37)

<評価と課題・改善>

専門家（臨床心理士や医師）を交えた教育支援委員会で審議をし、児童生徒にとって適切と思われる学級への入級への指導を行っております。支援委員会の答申どおりに入級した児童生徒は、令和2年度には71%、令和3年度は75%、令和4年度は74.4%、令和5年度は71%、令和6年度は83.2%と年々高まっており、特別支援学級への保護者の理解度の向上が感じられます。

<今後の方向性>

引き続き保育園や幼稚園への訪問など就学前機関との連携を深めるとともに、就学児健康診断等の様々な機会を捉えて子どもの状況を早めに把握し、適正な就学が図れるよう努めていきます。また、特別支援学級についても一層保護者の理解を得られるよう啓発していきます。

◇教育研究所運営事業(163,386円)

<事業概要及び実施状況>

各小中学校の教職員に対して、研修会「ゆうがお塾」を開催し、指導力向上及び若手教職員への人材育成を図ります。また、児童生徒に対して、「夢と志のある人づくり講演会」を開催し、郷土や日本・世界の偉人の生き方について学ぶことで、夢や志を持ってたくましく生きることの大切さを知り、自己有用感や自己存在感のある幸せで充実した人生を送るための基盤づくりに繋がります。令和6年度は「不可能を可能にする大谷翔平選手の生き方・考え方」をテーマに講演会を開催しました。生徒達も大変感銘を受けたようでした。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
ゆうがお塾開催回数	開催回数	回	2	1
夢と志のある人づくり講演会	開催回数	回	1	1

### <評価と課題・改善>

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向けて、各研究の最前線で活躍されている方を講師として研修会を開催し、教職員の資質向上を図りました。

### <今後の方向性>

壬生町教職員の指導力向上、若手教職員の人材育成を図るため、研修会を継続して実施していきます。

オンラインを利用することで、講師の移動手段等を検討する必要はなくなるため、講演内容の選択肢の幅が広がりました。今後もオンラインを利用することで移動の制限無しに有益な講演会を開催できるよう努めていきます。

### ◇教育相談員配置事業(13,150,827円)

#### <事業概要及び実施状況>

不登校などの問題を抱えている児童・生徒の保護者や学校などからの教育相談・適応相談に対応するため、教育相談員4名を配置し必要な助言や指導を行っています。また、教育支援センターひばりは不登校児童・生徒の貴重な学力保証の場にもなっています。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
相談件数	電話・来所件数	件	925	1,711
復帰者及び高校進学者	復帰者及び高校進学者	人	10	16

### <評価と課題・改善>

不登校児童生徒の保護者や本人と面談を行い、学校復帰、高校等への進学の実態に合わせた指導を行っています。教育支援センター「ひばり」では各教科の個別学習やグループ学習、調理実習などの体験学習、各種スポーツなど学校復帰に向け一人ひとりの実態にあった指導を行っています。また、不登校の児童生徒の自宅に相談員が訪問し相談を実施するゆうがおスタディアットホーム事業も平成30年度から実施しています。

### <今後の方向性>

不登校児童生徒は自信を失っていることが多いことから、保護者に対し子供に自信を取り戻させる方法などをアドバイスしていき、また教育相談員による家庭訪問等を実施し、子どもたちと直接話しをすることで学校への復帰や社会的自立を目指していきます。

## (2) 教育環境の充実

### ① 学校施設改修事業

#### ◇小・中学校施設修繕及び改修事業(227,371,535円)

#### <事業概要及び実施状況>

安全で快適な学習環境の整備を図るため、学校施設の修繕・改修工事を行います。また、学校施設は災害時において地域住民等の避難場所の役割も果たすことから、平成26年度までに全ての学校で耐震補強工事を終了しております。その後は町内全小中学校において和式トイレの洋式化をはじめ、近年の酷暑対応として使用する全ての教室へのエアコン設置、令和5年度に両中学校の体育館及び武道場への空調(スポットバズーカ)設置、児童生徒の安全を確保するため、全小中学校に防犯カメラの設置等を実施しました。

令和5年度から6年度にかけて、老朽化の著しかった安塚小学校普通特別教室棟の長寿命化改良工事を実施し、屋上防水、外壁修繕、教室や廊下などの内装工事、ペアガラスへの改修工事等を完了しました。

### <事業実績>

施設の老朽化に伴い多数の改修・修繕工事を実施しました。主な工事として、壬生小学校の保健室・談話室へのエアコン設置、稲葉小学校西門門扉改修、安塚小学校給食室給水・給湯管改修、壬生中学校の3教室にエアコン設置、南犬飼中学校エントランス修繕工事等を実施しました。

### <評価と課題・改善>

本町の学校施設は、概ね建築から40年以上が経過しており、老朽化が進んでいるため継続的な修繕が必須となっています。またそれにかかる費用も増大していることが課題となっており、費用を抑制しつつ計画的に修繕工事を行う必要があります。

### <今後の方向性>

令和2年度に公立学校施設長寿命化計画を策定し、令和4年度に安塚小学校普通特別教室棟長寿命化改良工事の設計業務委託を、令和5年度に第一期工事、令和6年度に第二期工事を実施しています。今後についても町の財政状況を勘案しながら計画に基づいた各施設の改修工事等を実施していくことで、引き続き児童・生徒の安全安心な学習環境及び快適な学校施設の整備等に努めてまいります。

## ② 学校給食及び食育充実事業

◇学校給食地産地消推進事業(0円)

### <事業概要及び実施状況>

学校給食において、地元で取れた農産物を積極的に取り入れ、食べることを通じて、郷土に対する愛着や食に対する感謝の気持ちを育む情操教育を推進します。

食生活の改善により、子どもたちの心身の健全な発達や生活習慣病予防につなげるために、生きる力を育むための基本的な生活習慣を身につけ、家族と連携し、家族で食べることや朝食を必ずとることの大切さを教えます。

また、農政課の学校給食かんぴょう活用推進事業により月一回、町内の児童生徒が学校給食を通して壬生町の地域の特産物であるかんぴょうの歴史と伝統を学ぶことを目的とし、かんぴょうを多く使った料理を提供する「ふくべランチ」を実施しています。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
地場産物地産地消率	食材に占める割合	%	63.8	70.3

### <評価と課題・改善>

食育の推進を図るため、さまざまな機会に食育を取り入れ、児童生徒の食に関する関心を高め、給食だよりや食育だより等の家庭用配布リーフレット等を通して、保護者への啓発を図っています。また、JA・農政課・学校の三者で連携を図り、学校給食への地場産物の納入促進や、生産者の顔が見える食材の提供に努めています。

令和5年度からは、紙媒体でのリーフレット配布から、データ配信へと変更したため、事業費は0円となっております。

### <今後の方向性>

今後も、引き続き安全安心な給食を提供するとともに、子どもたちが食への関心を高めるため、季節の行事食に地産地消を取り入れ推進していくことで、望ましい食生活の在り方を図っていきます。

### ③ 学校給食委託事業

◇小中学校給食委託事業 (135,970,450円)

#### <事業概要及び実施状況>

学校給食業務委託については、平成20年度に壬生中学校、平成22年度に南犬飼中学校、平成24年度に壬生小学校、平成26年度からは藤井小学校・稲葉小学校・羽生田小学校の3校を合わせて委託。(同3校については、平成29年度から調理・配送業務委託により、稲葉小学校給食共同調理場で給食を作り、藤井小・羽生田小へは、配送で給食を提供している)平成28年度には壬生北小学校、平成30年度からは睦小学校、平成31年度からは壬生東小学校を民間業務委託へ移行しました。現在、直営校は安塚小学校のみとなっております。

#### <事業実績>

指標名	単位	実績値(累計)	
		令和5年度	令和6年度
学校給食業務委託校	校	9	9

#### <評価と課題・改善>

学校給食業務については、平成24年度から長期継続契約による業務委託をすることができ、事務経費の節減ができました。また、調理員の急病等の突発的な事象にも迅速な対応がなされ、安全で安心な学校給食を効果的・効率的に提供することができました。

給食施設の老朽化にともない、調理用備品についても購入してから古い物は30年を経過しており、器具が使用できなくなった場合の備品の購入や施設の改修について、検討することが必要となってきています。

#### <今後の方向性>

今後も安全管理、危機管理体制の更なる構築を目的に、学校給食調理員の退職に伴い、委託計画による効率的な民間業者委託への移行を図りながら、安全で安心な給食の充実に努めていきます。

器具等の更新についても、計画的な備品の入替を図っていきます。

また、令和5年度に策定した「壬生町学校給食将来構想」により、親子給食の拡大や、給食センターの新設なども視野に入れ、今後の委託形態を検討する必要があります。

### ④ 学校規模適正化検討事業

◇小規模校地域活性化推進事業 (10,000円)

#### <事業概要及び実施状況>

児童数が減少し存続が不安視されている小規模・過小規模校のあり方について、平成29年度及び平成30年度に学校規模適正化審議会において審議検討し提出した答申に基づいて、令和元年度より羽生田小学校において小規模特認校を開設致しました。これにより保護者が希望すれば、通学区域以外の地域から羽生田小学校に就学することが可能となることから、将来に向けて児童数の維持・増加を図るものです。

#### <事業実績>

令和6年度は全校児童39名中17名の児童が通学区域外から通学しております。

#### <評価と課題・改善>

引き続き幼稚園や保育園などの就学前機関をはじめ各所に積極的なPRを行い、さらなる児童数の増加につなげていければと考えております。

#### <今後の方向性>

通学区域外児童の保護者が児童を迎えに来るまでの放課後の居場所を確保するため、児童クラブ等の充実を図りながら、多くの児童に通学してもらえよう現在の少人数を生かした魅力あふれる教育活動のさらなる周知を図っていきます。

### ⑤ 小中学校学校事務共同実施事業 (15, 231, 369 円)

#### <事業概要及び実施状況>

昨今教師の長時間労働が問題として認識されており、これに対処すべく児童生徒の情報を一元化し、通知表や指導要録及び膨大な調査票等の作成を効率的に進めるための校務支援システムを導入し、先生方の負担軽減を図り働き方改革につなげようとするものです。

#### <事業実績>

令和元年9月に町内全小中学校に校務支援システムを導入し、業務の効率化を図っています。

#### <評価と課題・改善>

個人情報の取扱いについては、より一層の情報モラル向上を図る必要性があります。また、システム利用に関する問合せに対し、迅速に対応していく必要があります。

#### <今後の方向性>

操作や情報モラルについての研修を重ねていくことで、すべての教員が操作に精通でき事務に費やす時間が削減されることで、教師本来の業務である児童生徒達に対応する時間が増加するように図っていきます。

なお、令和8年度にはシステムの更新を予定しており、現行のオンプレミス型からクラウド型に移行されることで更なる教員の働き方改革が推進される見込みです。

## (3) 学校部活動の改革

全国的な少子化の中でも、将来にわたり子どもたちがスポーツに親しむことができる機会を確保するため、中学校部活動への部活動指導員派遣や地域クラブへの移行を進めるとともに、学校の働き方改革を進めることで学校教育の質も向上を図ります。

### ① 地域部活動推進事業

◇地域クラブ活動への移行に向けた実証事業 (5, 577, 731 円)

#### <事業概要及び実施状況>

生徒にとって望ましい部活動の在り方等について、壬生町部活動地域移行検討委員会が部活動の地域移行に関する国の提言等を踏まえ審議を行い、令和8年度末までの壬生町における推進計画を策定いたしました。

また、町内中学校部活動のうち一部の休日部活動について、地域の指導者を中心としたクラブ活動への移行を行いました。

具体的には、令和6年8月より町内2中学校で各1種目（壬生中学校女子バレーボール部・南犬飼中学校男子バスケットボール部）の休日部活動について国委託事業を活用して地域クラブ化しております。

#### <事業実績>

指標名	単位	実績値	
		令和5年度	令和6年度
地域移行した部活動数	個	0	2

### <評価と課題・改善>

学校・保護者らに協力をいただいた結果、令和7年度末までに県ガイドラインで目標としていた「1校1種目以上の地域移行」を達成することができたが、地域クラブを運営する中で指導者や保護者より運営についての要望が出ていることから、それらの解決に努める必要があります。

また、国・県が事業を拡大する方針となった場合、事業実施には多くの人的・金銭的負担が発生することに加え、国からは事業実施にあたり、保護者等による受益者負担を検討するように指摘があることから、事業継続に向けた体制整備が必要となる。

### <今後の方向性>

部活動地域移行について現時点の国・県方針が令和7年度末までとなっていることから、町推進計画においても今後の方向性については国・県の動向を伺いながら進めていくと明記している状況です。このことから、具体的な方針について国・県の策定状況に応じて検討していく必要があります。

## ② 部活動指導員配備事業

◇部活動指導員配備事業 (3,244,724円)

### <事業概要及び実施状況>

令和5年度より国庫補助事業を活用して各学校に部活動指導員を配備し、教師に代わり部活動指導や大会引率を担うことにより、部活動の充実及び教師の負担軽減を図っています。

令和6年度においては壬生中学校で6人（女子バドミントン部、剣道部、ソフトボール部、水泳部、美術部2名）、南犬飼中学校で2人（女子バレーボール部、吹奏楽部）を配備し事業の充実を図っています。

### <事業実績>

指標名	単位	実績値	
		令和5年度	令和6年度
部活動指導員配備人数	人	3	8

### <評価と課題・改善>

部活動指導員を配備することにより、部活動内容の充実や教員の負担軽減が図れている状況です。しかしながら、部活動指導員配備については学校教員の配置により年々ニーズの状況が変化するため、長期的な計画が困難となっている状況です。

### <今後の方向性>

国の方針としては拠点校整備や地域クラブ化推進を重視していることから、本事業が現行どおり活用できるか未知数となっております。町としてはさらに部活動指導員の配備を積極的に行い部活動の充実や教員負担軽減を図りたいと思います。

評価委員の意見＞

◎学力向上支援事業

- ・学力向上支援事業は素晴らしい事業なので、今後も継続してもらいたい。

◎情報教育推進事業

Q. 他市町事例では情報端末の経費は受益者負担としているが、壬生町では負担をしているのか。

A. GIGA 端末については国庫補助を活用し、町が費用を負担している。

◎マイ・チャレンジ推進事業

- ・南犬飼中学校での実施が無いようなので、実施について検討してほしい。

◎教育支援事業

- ・支援学級と一般のボーダーラインの人について、高校進学に向けたサポートを手厚くしてもらいたい。

◎教育相談員配備事業

Q. 高校進学にあたり、教育相談員が直接引継ぎを行うことがあるのか。

A. 教育相談員が直接引継ぎは行っていないが、生徒が在席する学校とは情報の共有を行っており、中学校が保護者の了解を得て引継ぎを行っている。

(意見)

- ・不登校の生徒は人と接することが苦手な子が多いのでその点を配慮してほしい
- ・支援センターへ通うことが距離があって困難な場合もあるため、各学校での相談充実をお願いしたい。

◎学校給食地産地消推進事業・学校給食委託事業

- ・地場産利用向上に当たり、地元農協が運送費の関係で学校給食を委託している都合上、納品時間がばらつく状況から協力を断った経緯があり、利用率向上に当たっては納品しやすい状況について検討をお願いしたい。
- ・調理員の不足が課題であるのであれば、特別支援学校卒業生の就労受け入れ先とするのはどうだろうか。

◎小中学校学校事務共同実施事業

Q. システムへの住所入力などが労力として大きいと思われるが、教員の負担軽減の観点から教員以外の者でもそういった入力出来るか。

A. 実務の配分について教育委員会で具体的な指示はしていないが、教員でなくても可能な入力処理などは教員助手等も行っていると思う。

◎地域部活動推進事業

- ・指導者と保護者の間でハラスメントになるような事例も想定されることから、ルール作りをしっかりと作成していただきたい。
- ・専門性を持った方による指導が必要となることから難しい事業と思うので、時間がかかっても良いので、土台作りをしっかりとしてほしい。

Q. 壬生独自の人材バンクはないのか。

A. 町公式ウェブサイトに募集を出しており、数名の登録はあるが学校側とのマッチングが難しく、実際の指導者は学校からの紹介等が多いです。

Q. 保護者からの要望について具体的に教えてほしい。

A. 今回実施したところでは、保護者としては専門家による指導が受けられると想定していた所、実際の指導は見守り的なものになった例があり、要望とのマッチングに課題があります。

◎部活動指導員配置事業

- ・部活動指導員配備充実は地域クラブ化の指導者確保に繋がるので積極的に行ってほしい。

## 4. 明るく元気な生涯スポーツのまちづくり

### 基本方針

- 住民のスポーツ活動の拠点となる施設の整備や充実を図ります。
- 地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブを育成・支援します。

### (1) 生涯スポーツ活動の推進

スポーツは、単に競技を行う人だけに関わるものではなく、近年は、スポーツを通じた健康の保持・増進や地域社会の再生など、すべての地域住民への関わりを求められようになってきました。中でも生涯スポーツとは、その生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に「だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる」スポーツのことで、都市化・少子化などによって外遊びの機会が減少し、体力が低下している乳幼児・児童から、高齢化社会において生きがいを求める高齢者まで、幅広い年代層を対象とし、障がい者スポーツもこの範疇に含まれています。この生涯スポーツの推進を図るため、講習会や研修の開催・参加により、スポーツ推進委員などの人材の育成・確保を維持するとともに、総合型地域スポーツクラブの運営支援を継続して行います。

また、町のスポーツ拠点となる町運動場の施設整備や、地域の特色を生かした身近なスポーツ設備の整備、町全体でバランスを考慮した施設の配置など、町民の誰もが利用しやすい環境を確保することにより、効果的かつ適正な施設の管理・運営を推進します。

#### ① 総合型地域スポーツクラブ支援事業(4,100,000円)

##### <事業概要及び実施状況>

総合型地域スポーツクラブとして、平成23年2月に「ゆうがおスポーツクラブ」を設立しました。「みんなで、汗を、笑顔を、ふれあいを！」を基本理念に、生涯にわたって誰もが、いつまでも、自分のスタイルで気軽にスポーツを楽しめる「場」を地域につくり、健康で明るい活力あるまちづくりを目指し、スポーツを体験・修得できる、各種教室やイベント等を開催しています。

##### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
会員数	登録者数	人	600	593
教室・イベント数	教室・イベント数	個	20	26
教室・イベント参加者数	参加者数	人	8,709	9,273

##### <評価と課題・改善>

スポーツには、競技的な側面だけでなく、体力の向上や健康増進、ひいては青少年の健全育成や地域住民の交流などを深める効果があるとされています。

ゆうがおスポーツクラブでは、子どもから高齢者までが参加できる各種教室及びイベント等を開催しており、世代を超えた交流が図られ、日常的に身体を動かす機会の増加により、子どもの体力向上や高齢者の健康保持増進に大きな役割を果たしています。

会員数は、昨年とほぼ同じですが、教室やイベントの参加者数は、昨年から約600人増加しました。要因としては、教室事業数や種類の増加に伴う開催日数の増加が主なものと考えられます。

### <今後の方向性>

町民の健康増進を図るとともに、更に魅力ある教室事業や各種イベントの充実化を図るなど、運営方法を見直しながら会員数の増加を目指します。

多種多様なスポーツの機会を広く町民の方に提供するだけでなく、幅広いニーズに応えるため、より良い指導者を招くなど、教室事業の質を高めるよう取り組みます。

また、今後は、会費収入や教室の参加料以外にも、一般の人向けの講座やイベント実施による収入、自治体や他団体からの委託事業収入なども併せて検討していく必要があると考えており、引き続き、会員の増加、協賛金の募集など可能な限りの自主財源の確保については、継続してさらなる努力を図るよう指導・助言などを行って参りたいと思います。

## ②運動場管理事業 (32,469,506円)

### <事業概要及び実施状況>

運動場維持管理事業の修繕料により設備の破損等軽微な修繕を実施しました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
利用者数	運動場(北部・南部含む)	人	25,232	28,466
	テニスコート	人	20,256	19,513
	武道館・弓道場	人	8,194	11,500
	体育館・ホール・リングルーム	人	24,503	26,017
	会議室・多目的室	人	815	651
	トレーニングルーム・シャワールーム	人	9,704	13,738
	合計	人	88,704	99,885

### <評価と課題・改善>

令和6年度の総利用者数は前年度より112.6%増加しておりますが、令和元年度の81.7%にとどまっております。これは、コロナ禍が落ち着きスポーツを行う状況が整ってきたものの、令和元年度では、町庁舎敷地となった総合運動場南側運動広場の利用者が学校開放などへ分散したことが原因と思われる。

各施設とも経年劣化等による損傷等が多く見受けられ維持管理にかかる費用が増大していくことが課題となっておりますが、利用者の安全性、利便性などが損なわれることのないよう計画的に修繕工事等の実施ができるよう努めてまいります。

### <今後の方向性>

今後も利用者の要望に耳を傾けながら安全性を確保するとともに、利便性・快適性に配慮し、利用向上を図ってまいります。また、更なる利用者の増加に繋がるよう、様々な取組を図っていただくだけでなく、利用者が安心してスポーツ活動に取り組めるよう、未来に向けてスポーツ施設の計画的な修繕、施設整備の推進を図るとともに、各施設の適切な維持管理に努めます。

## (2) 多様なスポーツの振興

住民がスポーツに取り組むきっかけとなるよう、スポーツ推進委員やスポーツ協会等の協力のもと、ゆうがおマラソン大会等を開催します。

また、栃木県郡市町対抗駅伝競走大会や栃木県小学生駅伝競走大会へ出場する選手の育成・強化対策として、学校や駅伝チーム、クラブの指導者等との連携を強化しながら、選手の発掘に努めるとともに、選手の競技力向上に努めるなど選手の育成支援を図ります。

その他、スポーツクライミングについては、町内に整備したボルダリング施設を有効活用し、町民の体力向上や、生涯スポーツとして普及推進を図ってまいります。

### ① ゆうがおマラソン開催事業 (8,193,157円【内スポーツ振興くじ助成金6,554,000円】)

#### <事業概要及び実施状況>

ゆうがおマラソン大会の10kmコースについては、応援のしやすさや交通規制の観点から、令和5年度より5kmコースを2周する形式にしました。昨年度におきましても、例年同様ゲストランナーに「高橋尚子」さんをお迎えし、10kmコースを含め16種目で大会を実施いたしました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
大会申込者数	エントリー数	人	1,241人	1,473人
町外の申込者数	〃	人	903人	1,088人

#### <評価と課題>

例年のマラソン大会における、参加者の感想では、大会全体に対して好印象を持っていた方が多く、中でも、ゲストランナーへの好印象が大きく、また、平坦でのどかな田園地帯を走るコース設定についても好感を持たれています。

大会ボランティアについても、壬生中学校・南犬飼中学校、壬生高等学校、獨協医科大学、町内ボランティア団体など数多くの方々に参加協力いただき、大会を盛り上げていただきました。

また、町外の参加者も多く、県外からの参加もありますので、壬生町を知っていただくきっかけとなり、町のPRにも貢献をしているものと考えております。

令和6年度運営費については、参加費や協賛金、町の補助金8,300,000円に対する独立行政法人日本スポーツ振興センター(toto)の助成金6,554,000円を活用しており、収支の効率化が図られています。

#### <今後の方向性>

スポーツを通じた人と人の交流及び地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するため、壬生町ならではの大会の雰囲気や町のPR等、地域貢献に寄与することなどを継続していきます。

大会運営や参加者の確保については、PRの方法も含め、よりよい事業となるように、大会内容についてあらためて精査していきます。

大会ポスターやパンフレット、町広報誌、町公式ウェブサイトなどの既存広報媒体のほか、観光部門との連携を強化し、効果的なPRを図ります。

また、ボランティアも大会参加の一つの形となりますので、今後も町民の方などにご協力いただきながら、マラソン大会を通じた地域貢献の環境づくりを行い、地域全体としておもてなしをすることにより、町内・町外も含めて多様な交流を推進していくことも図って参ります。

## ② 壬生町駅伝チーム育成支援事業（1,183,739円）

※栃木県郡市町対抗駅伝競走大会出場事業

### <事業概要及び実施状況>

栃木県郡市町対抗駅伝競走大会には、壬生町としての単独チームは平成22年度から参加しています。

令和6年度は本大会に向け、町の強化選手が監督を中心に強化練習会を町の陸上競技場などで行ないました。また、レース感覚を養うために他市町のマラソン大会にも出場し、年間を通じて選手の強化を図っています。中学生の強化選手については、各中学校の陸上部と推薦された選手を指定しています。

令和6年度の第66回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会は、2年ぶりとなるロードレース形式で、カンセキスタジアムとちぎからニッコークリエートスポーツフィールドとちぎの往復に変更となり、壬生町にも中継所が3箇所設置され新コースでの開催となりました。壬生町駅伝チームも前年度に引き続き、総合16位という成績を収めました。

また、平成25年度から町内の各小学校に選手を募集し栃木県小学生駅伝競走大会にも出場しています。令和6年度の第17回栃木県小学生駅伝競走大会は、壬生町からは2チームが参加し、うち1チームは見事8位に入賞し、練習の成果を十分に発揮し、仲間と共にチーム一丸となって、ゴールまで力強く元気な走りを見せてくれました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
郡市町対抗駅伝競走大会順位	チーム数・順位	位	25チーム中 16位	29チーム中 16位
県小学生駅伝競走大会順位	チーム数・順位	位	33チーム中 19位	35チーム中 8位、28位

### <評価と課題・改善>

郡市町対抗駅伝競走大会では、2年ぶりとなったロードレース形式で総合16位という成績を収めました。また、小学生駅伝競走大会では、1チームが8位入賞にする素晴らしい結果を残すことができました。

この良い流れを継続する為に、町の広報紙やホームページ等で駅伝大会や練習会をPRし、町全体としての機運醸成を図るとともに、選手の発掘・育成をする必要があります。

### <今後の方向性>

チームの成績をあげるためには、中学生・高校生の育成が重要となります。そのためにも、栃木県小学生駅伝競走大会から栃木県郡市町対抗駅伝競走大会への道筋を作るため、小学生選手の発掘・育成を行い、チームの底上げを図ることにより、壬生町駅伝チームの強化に繋がっていくものと考えます。競技力の強化だけを目的とするのではなく、走る楽しさを伝えていくことも、将来に亘って壬生町で活躍してもらえる選手の育成に繋がることになるものと考えます。

## ③ スポーツ振興助成事業（2,859,000円）

### <事業概要及び実施状況>

スポーツ活動を振興し、町民の健康の増進などを図るとともに、壬生町のスポーツ振興に寄与しているスポーツ協会（各専門部）に補助金を交付し、各種競技スポーツ団体の大会開催や教室等の活動支援を行っています。

また、スポーツ全国大会等出場者(個人・団体)に激励金を交付し、その成果を称えるとともに、町広報誌での掲載やスポーツ協会において全国大会等の出場者を表彰するなど、広く町民にスポーツの意識の高揚を図り、本町のスポーツ振興に寄与することができました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
スポーツ団体の大会開催数	スポ協専門部主催の大会	回	45	65
全国大会等出場者数	激励金交付者数	人	125	145
全国大会等出場者団体数	激励金交付団体数	団体	9	8

#### <評価と課題・改善>

令和6年度は、前年度より出場大会数及び激励金交付者数も増加しました。

町民スポーツ意識の高揚を図るとともに、競技スポーツの質の向上、スポーツ参加の促進、指導体制の確立を図るため補助金を交付することにより、各種競技団体及び町民が活動しやすい環境づくりに取り組んで参ります。

#### <今後の方向性>

スポーツ協会等との連携を更に強化し、競技スポーツの推進を図ります。

また、全国大会等の出場者への激励金については他市町の状況等を調査検討しながら、日ごろの活動を称える意味も含めて、継続して参ります。

### ④ スポーツライミング普及促進事業(1,495,800円)

#### <事業概要及び実施状況>

令和4年10月に開催された栃木国体開催を契機に本町開催競技が町民に浸透し、町民のスポーツへの関心が高まっています。

令和6年度は、県のいちご一会とちぎ感動スポーツプロジェクト推進事業を活用し、町内在住の小学生を対象としたクライミング講習会を開催し、18名の参加者がありました。また、前年度に引き続き、総合型地域スポーツクラブでボルダリング教室を開催し延べ614名の参加者がありました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
ボルダリング施設普及状況	年度内登録者数	人	251	371
ボルダリング施設活用状況	利用者数	人	1,644	1,814

#### <評価と課題・改善>

令和6年度は、ボルダリング施設の年度内登録者数及び利用者数ともに前年度より増加しました。コロナ禍によりスポーツに取り組む場所や機会が少なくなっていたため、体力が低下してしまったりスポーツから離れてしまった町民が、活動を再開したこと、また、国体競技として本町でスポーツライミングが実施されたことが理由であると考えられます。スポーツライミングについては全身運動であり、町民の健康づくりとして有効であると考えておりますので、町事業だけではなく総合型地域スポーツクラブである「ゆうがおスポーツクラブ」にも協力をいただきながら普及促進を図ります。

## <今後の方向性>

本町で開催された国体競技の一つであるスポーツクライミングが、町民に浸透し、国体を契機に高まった町民のスポーツへの関心を持続させるためにも、スポーツ振興の一つの核として、「山のないまちでクライミング！」のキャッチフレーズのもとに競技の普及促進を図り、健康事業や地域振興事業など他分野との連携を図ります。

また、町総合運動場ボルダリング施設の安全性の確保し、適切な維持管理に努めてまいります。

### <評価委員の意見>

#### ◎運動場管理事業

Q. 現時点でテニスコートについては適切な修繕がなされているが、テニスコートの全面張り替えについて計画をしているか教えていただきたい。

A. 全面張り替えについては高額な費用が必要となることから、テニスコートについては破損箇所修繕に留まる状況です。また、スポーツ振興課の管理施設全体で老朽化が進んでいることから、整備については安全面に関する箇所を優先して行っております。

(意見)

- ・施設の維持・管理をするにあたり、人口減少傾向にあることから町民一人ひとりの負担が今後は大きくなっていくと思われる。運動施設においても指定管理制度の導入や民間スポーツ施設の活用を検討したらいかがだろうか。
- ・体育館整備検討開始から10数年経過していることから、新体育館について地域の力を借りて進めてほしい。

#### ◎ゆうがおマラソン開催事業

Q. ゆうがおマラソンの参加者数が開始当初より若干減少しているが、令和7年度の募集はどうなっているか。

A. 令和7年度については、前年度より400名程度増加している。運営側としては安全面を考慮すると2,000名程度が妥当と思われます。

(意見)

- ・参加者の負担減を考え、複数名参加による駅伝形式も良いのではないかと。ゆうがおマラソン大会ではゲストランナーが参加することで関心を持ってもらっているが、駅伝の強化を目的として競技駅伝参加経験者をチームに招集するのはどうだろうか。

#### ◎壬生町駅伝チーム育成支援事業

- ・駅伝選手育成については、学校とも連携して進めてほしい。

#### ◎スポーツクライミング普及促進事業

- ・「山のないまちでクライミング！」のキャッチフレーズが素晴らしい。ボルダリング施設は各学校の体育館に設置してあるので、子ども達がボルダリングに触れる機会も多いことから、事故の無い様に管理をお願いしたい。

## 5. 家庭と地域の絆を育むまちづくり

### 基本方針

- 家庭教育を支援するあらゆる機会をとらえた「子育て・親育ち講座」の開催やスマートフォン等の携帯情報端末を介した有害情報から子どもたちを守る取り組みを行います。
- 学校・家庭・地域が一体となって心温かな子どもを育むことを目指し、子どもを中心に幅広い年代層が触れ合える交流活動や体験活動、学習活動を推進します。

### (1) 家庭教育の推進

子育ては、親が親としての責務を十分に自覚し、優しさ、暖かさ、厳しさを持って子育てを担っていくことが必要です。

幼少期や思春期などの子どもの発達段階についての理解や親としての関わり方を学ぶため、様々な機会を活用した講座を開催し、家庭の教育力を向上させていきます。

#### ① 子育て・親育ち講座開催事業(425,906円)

##### <事業概要及び実施状況>

家庭の教育力の低下や子育ての密室化等が指摘されている今日、保護者が子育て上必要な素養を学んだり、保護者どうしがゆるやかなにつながりを持つことを目的とした「子育て・親育ち講座」を開催しました。実施の方向性は、庁内関係部課局職員や地域住民等で構成する家庭教育支援実行委員会において協議し、講座の企画運営は、家庭教育支援チームが担いました。

##### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
子育て・親育ち講座	開催数	回	51	47

##### <評価と課題・改善>

仕事等を抱えて多忙な生活を送っている保護者に対しても学習機会が提供できるよう、保育園・幼稚園、小・中学校、各地域団体等と連携・協働し、様々な機会を利用して講座を開催しました。令和6年度はこども未来課や地域団体との協働を積極的に行い、感染症対策実施前の水準での事業数を実施することが出来ました。

就学時健康診断参加者を対象とした講座を8講座実施し315名の参加、小学校3年生の子をもつ保護者を対象とした講座を7講座開催し263名の参加、思春期の子を持つ保護者を対象とした講座を11講座開催し、524名の参加がありました。

また、保育園との協働による講座を3講座開催し、140名の参加、こども未来課との協働による講座を12講座開催し、114名の参加、地域団体との協働による講座を6講座開催し、103名の参加がありました。

今後も、各種団体との連携を図りながら、母親、父親、中学生および青少年向けと多様な講座の開催を推進します。

##### <今後の方向性>

講座の内容を工夫して家庭での教育力を高めていけるような講座になるように、家庭教育支援チーム員とともに講座の内容を検討して参ります。

## (2) 青少年教育の推進

青少年が健やかに育っていく過程では、社会性は人々との関わりの中から、意欲は物事に能動的・積極的に取り組むことで培われており、それらを育むためには、様々な体験活動を提供することが必要です。

そのため、各種団体の活動を支援し、青少年の体験学習や交流事業を推進していきます。

### ① 青少年活動推進事業 (533, 104 円)

#### <事業概要及び実施状況>

例年、あいさつや人とのつながりの大切さや、薬物や有害サイトの危険から自身を守ること、犯罪の未然防止・更生の援助などを啓発する標語を町内の中学2年生から募集し、様々な場面での啓発に活用しております。

少年犯罪等を未然に防止するため、PTAや町内関係団体が構成する青少年健全育成実施委員会では街頭指導パトロールを八坂祭とふるさとまつり会場で実施するほか、城址公園フェスティバル等で青少年健全育成啓発活動を実施いたしました。

また、社会の構成員としての責任を自覚してもらうために二十歳の集い（成人式）を開催しました。令和4年4月1日から成人年齢が18歳になることに合わせ、壬生町では成人式の名称を二十歳の集い（成人式）と改めております。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
二十歳の集い（成人式）の出席者	二十歳の集い（成人式）の出席者数	人	285	296
二十歳の集い（成人式）の出席率	二十歳の集い（成人式）出席者数／成人者数	%	72.3	72.2

#### <評価と課題・改善>

令和6年度の二十歳の集い（成人式）は、令和7年1月12日に国歌・町民の歌斉唱を含めた新型コロナウイルス蔓延以前の内容で実施いたしました。

また、町内の中学2年生より青少年健全育成標語を募集し、優秀な作品を選出しました。啓発品に作品を印刷し、啓発活動に使用しました。

#### <今後の方向性>

「民法の一部を改正する法律」が令和4年4月1日から施行され、成人年齢が18歳に引き下げられましたが、18歳は受験や就職などと重なり、成人式を開催しても参加できない新成人が多いと推測されることから、壬生町では20歳を迎える年度に実施する方向で、二十歳の集い（成人式）に名称を変更して実施しております。

また、青少年を健全に育成するため、環境浄化や啓発活動を推進して参ります。

## (3) 地域と連携した教育の推進

### ① 地域学校協働活動推進事業 (404, 439 円)

#### <事業概要及び実施状況>

本事業は、学校・地域住民や保護者・行政・関係機関や団体等がパートナーとして互いに連携・協働し、未来を創り出す心豊かな子どもをはぐくむとともに、子どもたちが多様な人との関わりや、豊かな体験活動を重ねる中で、大人とともに学び合い、育ち合う教育体制の構築を推進します。

「学校支援ボランティア活動」は、伝統芸能指導や読み聞かせ等の活動をする「ゲストティーチャー活動」、授業補助や校外学習の引率等の活動をする「学習アシスタント活動」、植木の剪定や校舎内修繕等の活動をする「施設メンテナー活動」、スクールガードなどの活動をする「環境サポーター活動」があります。そして、令和5年度よりボランティア

アの活動に伴うケガ等の補償については、町で加入している「全国町村会総合賠償補償」を活用しております。

また、「ホリデーアクションプラン事業」「放課後子ども教室事業」「放課後学習サポート事業」「中学生及び青少年による地域活動の推進」「地域住民との協働による地域貢献型の学習機会や体験活動」等の事業とも連携して推進します。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
学校地域支援ボランティア登録者数	各小中学校及び生涯学習課への登録延べ人数	人	468	543

#### <評価と課題・改善>

学校支援ボランティアには、多くの地域住民が関わり、地域の教育力を学校教育活動の中に生かすことができました。

また、「スクールガード」については、今市事件から月日が経過し、見守りの重要性が薄れ、令和6年度のスクールガードの登録人数は、最も多かった平成18年度の404名から約1/4の115名に減少しました。事業の普及、啓発のために、行政協力員（自治会長）の会議や県シルバー大学校卒業生対象の地域活動学習会において、チラシ等を配布し、学校支援ボランティアの周知を図っております。「放課後学習サポート事業」において、参加した生徒とその保護者を対象に実施したアンケート調査の結果、多数の参加者らより学習意欲が向上したとの意見がありました。また、意見として自習室の設置等事業の拡充を求める声がありましたので、より効果的な事業ができるよう検討していきます。

#### <今後の方向性>

令和2年度から事業名を「地域学校協働活動推進事業」に改め、地域学校協働本部を生涯学習課内に設置しました。学校、地域住民、行政や関係機関、団体等が連携・協働して子どもたちを地域全体で育もうとする気運をより一層高めていくように事業の周知に努めていきます。

### ② 中学生及び青少年地域活動参画推進事業（33,720円）

◇壬生町中学生及び青少年地域活動参画推進事業（ふ.る.るMibu）

◇ふ.る.るMibu JLC

#### <事業概要及び実施状況>

地域社会における住民のつながりの重要性が指摘されている中で、地域の若いチカラである中学生や二十歳未満の青少年の姿が地域の中に見えず、大人世代のみで地域活動が展開されている、という指摘もあります。次代の壬生町の担い手となる中学生及び青少年と地域の大人が多様につながりあう機会を地域の中に創り出すためのしかけづくりは、活力ある未来のまちづくりと同義であり、壬生町における地域課題の一つです。

こうした背景を踏まえ、中学生及び青少年が様々な価値観や人生観を有する地域の大人とのかかわりあいをおして自己肯定感や郷土愛を高めたり、人の役に立つ経験をおして自己有用感を育んだりできるよう、中学生及び青少年が地域の大人と共に地域社会で活躍できる機会を創出していきます。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
中学生及び青少年地域活動参加者数	中学生及び青少年地域活動参加者延べ人数	人	457	304

### <評価と課題・改善>

中学生及び青少年の地域活動参画推進事業（ボランティア活動、地域施設の活動講座等）を実施しました。令和6年度は各種イベント開催が学校行事等と重複したことから、昨年度と比較して若干の減少はありましたが、社会福祉協議会や児童館等との連携事業を行った結果、多くの中学生・高校生の参加がありました。

### <今後の方向性>

次代の担い手である中学生及び青少年に対して、地域の大人と共に地域社会で活躍できる機会を地域団体等との協働により提供していきます。中学生全体の人数が減少傾向にあり、参加できる機会も減少しています。こうした現状の中でも、中学生及び青少年が様々な価値観や人生観を有する地域の大人とのかかわりあいを通して、自己肯定感や郷土愛を高めたり、人の役に立つ経験を通して、自己有用感を育んだりできるような事業を展開していきます。

## ③ 放課後子ども教室事業（843,673円）

### <事業概要及び実施状況>

未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働して地域全体で教育を行うことが必要です。共働きの家庭が増加し、放課後における子どもの居場所づくりと健全育成は喫緊の課題となっております。そこで、地域住民や大学生・企業OB等様々な人材の協力を得て、放課後等にすべての子どもを対象として、安心・安全な子どもの活動拠点（居場所）である放課後子ども教室を設け、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供します。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
教育活動サポーター参加者数	教育活動サポーター参加者延べ人数	人	644	754

### <評価と課題・改善>

この事業は藤井小学校で平成30年5月に開始し、令和元年5月からは羽生田小学校でも開始しました。両校とも令和元年5月から放課後児童クラブを一体型として開設しました。令和6年度は藤井小学校は4月から3月まで（8月を除く）、羽生田小学校は5月から3月まで（8月を除く）放課後子ども教室を開設しました。小規模校の利点として放課後子ども教室での地域住民との交流による学びの機会を多く提供していきます。

### <今後の方向性>

藤井小学校、羽生田小学校とも協力ボランティアの確保が最優先課題となっております。保護者や当初から協力いただいているボランティアの方の負担が大きく、新たなボランティアや利用児童の人数を増加させるよう、対策を講じていきます。

また、活動内容の見直しやスタッフの研修等を行い、活動の充実を図っていきたいと考えています。

<評価委員の意見>

◎子育て・親育ち講座開催事業

- ・これからも講座開催件数を減らさないよう続けていただきたい。

◎青少年活動推進事業

- ・二十歳の集いについては、町外転出者が参加しやすい体制の整備など検討いただいて参加者数の増加を図っていただきたい。

◎中学生及び青少年地域活動参画推進事業

- ・中学生が町の行事等によく参加しているなど思っていますので、今後ともいろいろな機会を通じて参加できるよう引き続き指導していただければと思っております。

◎地域学校協働活動推進事業

- ・学校と地元自治会の関係性が希薄になっていることから、スクールガード募集についても理解が得られていないと思うことから、年1回程度学校から地元自治会長へどのようなボランティアが必要かの働きかけを行っても良いのではと思う。

## 6. 国際性を高め交流活動が盛んなまちづくり

### 基本方針

- 異国文化への理解を深める活動を推進し、本町に居住する外国人のニーズに応じて情報提供します。
- これからのグローバル社会を生きる子どもたちのため、国際理解教育を充実します。

### (1) 国際理解の促進

#### ① 外国語指導助手配置事業(29,069,040円)

##### <事業概要及び実施状況>

平成23年度から民間委託の外国語指導助手（ALT）を配置しています。令和2年度より新学習指導要領の全面実施となることを受け、義務教育における外国語教育が大きく変わることに伴い、移行措置が始まる平成30年度より外国語指導助手（ALT）の配置数を3名から7名に増やしました。外国語教育への需要が高まる中、小学校ではこの他に予備時数を活用して、1・2年生においても英語活動を実施し、「英語に慣れ親しむ」機会の充実に努めています。幼児教育の重要性とその効果の大きさが色々な分野で検証されつつある中、本町では幼児期からネイティブな英語に慣れ親しむことを目的に、幼稚園・保育園においてもALTを活用した事業を行っています。

また、ALTを活用したイングリッシュ・プログラムを年2回、小学校3年生から6年生を対象に希望者を募り、「まる1日英語で過ごそう」をテーマに事業を実施しました。

##### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
ALTの児童生徒1人あたりの事業費	総事業費/児童生徒人数	円	10,045	10,027
イングリッシュ・プログラム	参加人数	人	101	77

##### <評価と課題・改善>

外国人による生きた英語による授業により、児童・生徒の学習の意欲が高まるなど外国の文化などへの興味・関心を深めることができました。

ALTを学校に計画的に配置することで、小学校低学年のうちから英語に触れ合いコミュニケーション能力向上に繋げ、児童生徒が異文化に触れる経験をとおして、豊かな英語力を身に付けられる異文化体験を積むことができました。

担任とALTの事前打合せ時間を確保するなどの環境面での整備が重要です。教員が授業の中でよりALTとのTT体制の授業を充実させるために、教職員の指導力向上が課題となります。

##### <今後の方向性>

指導力や人間性に優れたALTを配置できるよう、学校現場の声を聞き取りながら派遣会社に働きかけていきます。また、教職員の指導力向上のための、教育委員会から学校への訪問指導や研修を実施します。英語指導力に不安や困り感を持つ教職員を対象に自主研修会や勉強会などを実施していくことを検討します。

また、安定的かつ質の高いALTの派遣業務を実施するため、数年にわたる長期契約を行い、イングリッシュ・プログラム事業や英検受験補助等英語教育全般の総合的な核となるようALTの活用について検討します。

## (2) 国際交流活動の推進

### ① 中学生国際交流推進事業(12,521,657円)

#### <事業概要及び実施状況>

本事業は、平成10年度から実施しており、令和2年度の中止をはさみ、令和3年度から令和5年度はオンライン海外体験語学研修を実施していましたが、新型コロナウイルス感染症による行動制限が解除されたことに伴い、令和6年度は5年ぶりに第26回壬生町中学生海外派遣団として、実際の海外派遣を実施することとなりました。

町内在住の中学校第2・3学年を対象に公募を行い、57名からの応募の中、選出された20名が、8月3日から8月11日の9日間、オーストラリア・シドニーへ派遣されました。派遣先においては、現地校との交流、語学学校での学習、ホームステイ等を通して、英語学習のみならず、現地での生活や価値観を直に体験することができ、生徒たちが大きく成長する機会となりました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			令和5年度	令和6年度
参加者1人あたり事業費	総事業費/派遣団員数	円	25,402	626,083

#### <評価と課題・改善>

数年ぶりの現地派遣のため、従前では中学2年生を対象としていたものを3年生も対象とし、結果として多くの応募がありました。数年ぶりの実地派遣のため、事業全体の計画、運用管理等に苦慮する面もありましたが、滞りなく全員無事に派遣することができました。

#### <今後の方向性>

町の将来を担う人材の育成のため、引き続き中学校生第2・3学年を対象として、事業を継続していきます。派遣計画においては、安全性の水準を保ちながら、より効果的に事業を実施できるよう、実施経験やコスト軽減に繋がる実績・ノウハウを持った業者選択を図っていきます。

<評価委員の意見>

◎外国度指導助手配置事業

- ・担任とALTとの相談が大変だが、マニュアル等や教材の積み上げがあれば今後の指導に生かせるのではないだろうか。

◎中学生国際交流推進事業

Q. 海外派遣にあたり、例年訪問する学校は同じなのか。

A. 訪問する学校は委託業者が選定している状況であり、毎年同じとは限らない状況です。令和6年度と令和7年度では実際に異なる学校を訪問しています。

(意見)

- ・物価上昇に伴い事業費用の負担が上昇するが、非常に重要な事業であることから継続をお願いしたい。
- ・申込をしたが研修に参加できなかった生徒については、インターネットを活用して同時参加できればと思う。生の英会話を学ぶことは重要なことだと思うので、機会提供についてお願いしたい。

(担当課補足)

壬生町では、本事業とは別の事業として、学校内で朝の時間に外国人とのオンラインによる英会話学習を定期的に行っています。